

青年技術士交流実行委員会

活動年鑑

1A(24期) 2005年6月～2006年5月



Vol.1

2006.6

社団法人日本技術士会 青年技術士交流実行委員会

目 次

❧ 巻頭言・・・・・・・・・・ 1

❧ 月例会活動報告・・・・・・・・・・ 2

❧ ワーキンググループ紹介・・・・・・・・・・ 10

❧ 委員・委員補佐紹介・・・・・・・・・・ 15

❧ 日韓技術士会議報告・・・・・・・・・・ 31

❧ CAFE0_23/YEAFE0_12 報告・・・・・・・・・・ 36

❧ 国際交流活動ポスター紹介・・・・・・・・・・ 38

青年技術士交流実行委員会 最初の1年を振り返って

青年技術士交流実行委員会委員長 野 村 貢

平成 17 年度、一次試験の合格者は約 1 万人（平成 15 年度は約 3 万人）、二次試験の合格者は 3,500 人（平成 14 年度約 9,000 人）と、それぞれ平成元年に対して約 11 倍と約 3 倍に達し、青年技術士／修習技術者は、制度の改革や自身の技術者資格向上への想いもありどんどん増えています。

いま、技術士はゴールではなく、技術者としてのキャリアを築くスタートラインとしての資格に位置付けを変えています。これは「技術士ビジョン 21」にも示されているとおりであり、技術士会内部とそれを取り巻く方々にも概ね浸透してきました。

日本技術士会には、約 45 年前に青年技術士の自主的組織として認知された「青年技術士懇談会」という組織があり、近年では調査委員会という位置付けを得て活動していました。しかし旧来、技術士という資格は「技術者としての最高峰の資格」であり、ベテランが自身の技術者経歴の集大成としてこれを目指すもの、という認識があったこともあり、長い間若手は技術士会のなかでは少数派であったわけです。

調査委員会としての青年技術士懇談会は、活動の自由は際だって大きかったものの、技術士会内部への発言力としては限定的なものしか与えられておらず、その活動の幅や大きさに比して立場がそぐわないものとなっていました。

調査委員会青年技術士懇談会は 3 年前からこのような状況を改善すべく、自身の組織見直しを図るとともに、活動を記録し紹介する「年鑑」の刊行、シンポジウムなどの規模の大きな活動、本支部青年技術者の連携具体化などに取り組み、明確な活動履歴を構築するとともに、技術士会内での自身の立場として相応しいポジションを模索してきました。その結果が、2005 年 5 月の調査委員会青年技術士懇談会の終了、青年技術士交流実行委員会の発足であり、これに至り青年技術士は技術士会のなかにおいて明確な立場と行動力を保証される立場を得たのです。

今年度は、新組織の 1 年目ということもあり、活動を模索する 1 年であったと思います。いくつかのトラブルも経験し、また新しい取り組みにもチャレンジしてきました。

ここに今年度の活動を記録するための年鑑を作成するにあたり、数年、いや数十年後の青年技術士たちがこの委員会の黎明期を振り返れるものになりたいと思います。よって、細部の精度は目をつぶってください。概ねこのような活動をしてきたのです。

きっと数十年後の青年技術士／修習技術者はこの年鑑を見て、こう言うことでしょう。

「なんで若手若手と大騒ぎしてバタバタやってたんだろうね」

では、ご一読あれ。

【月例会活動報告】

2005 年 7 月～2006 年 4 月

開催日	場所	テーマ	例会名	内容
2005. 7. 8(金) 18:30～20:30	葺手第二ビル	勉強会	バランススコア カード概説	寺西 由夫氏（技術士情報 工学部門）の講演
2005. 8. 7(日) 18:00～20:30	プティフ	懇親会	ビア・カレーパーティ	新しい交流チャンネルを 探そう
2006. 1. 28(土) 17:00～19:00	葺手第二ビル	成果発表会	青年技術士委員会 の今年度海外交流 成果 発表会	1. 海外派遣の取り組みに ついて 2. 日韓会議参加報告 3. CAFE0、YEAFE0 参加報 告 4. 青年技術士の海外交流
2006. 2. 1(水) 14:00～15:50	独立行政法人 造幣局東京支 局	見学会	造幣局東京支局 （東京工場）見学会	博物館、工場見学
2006. 3. 4(土) 10:30～20:30	葺手第二ビル	勉強会	若手技術者のため の例会	1. 講演 2. グループディスカッシ ョン 3. 懇親会
2006. 4. 10(月) 18:00～21:00	葺手第二ビル	勉強会	Steven Ashton （英会話講師）	講演＋ディスカッション 「技術者の国際会議にお けるプレゼンテーショ ン」

（各月例会の議事録を次ページ以降に紹介します。）

月例会活動報告

青年技術士交流実行委員会 7 月度月例会報告

- 日 時：2005 年 7 月 8 日（金） 18：30 ～ 20：30
- 場 所：葺手第二ビル 5 階 C, D 会議室
- 参加者：8 名
- 内 容：

寺西 由夫氏（技術士 情報工学部門）による「バランススコアカード概説」の講演が行われた。

バランススコアカードは本来「事業をいかに適切に企ていかに確実に実行していくか」を考え、整理して実行するための手法であるが、次の特長から、経営戦略のみならず個人のキャリアプランからライフプランにまで適用することができる。

- ・多角的で応用範囲が広いこと
- ・迷い、悩んだ時に立ち返るよりどこを確立する手法であること
- ・既に広く普及しており、これからのビジネスの共通言語になっていくと思われること

本公演では、一般的なバランススコアカードの手法とその背景について解説されるとともに、適切な視点をバランスよく持つことの重要性、そのための考え方や情報の整理の仕方も紹介された。あわせて、実際の経営企画の現場からの意見やエピソードも紹介され、青年技術士や修習技術者が経営層と現場業務の双方を結びつける重要な位置にいること、そのため、経営と現場の双方の理解を強く求められることが示唆された。

以上

（寺西 由夫）

月例会活動報告

青年技術士交流実行委員会 8 月度月例会報告

■ 日 時：2005 年 8 月 7 日（日）18：00～20：30

■ 場 所： プティフ

東京都 文京区本郷 4-1-3 03 (3815) 9408

■ 会 費： ￥5500

■ 参加者： 16 名

■ 内 容： ビア・カレーパーティー「新しい交流チャンネルを探そう！」

※ 今年には暑い夏対策を兼ねたビア・カレーパーティー。

チーフシェフはTVチャンピオンカレー選手権優勝者。

TV・雑誌に登場する美味しい有名店で人脈作りを！

1. 挨拶

石井委員長

2. 歓談

3. 感想

毎年お馴染みの、技術士試験終了後のビア・パーティー。

今年はお酒の苦手な方もターゲットにカレー屋を選択したが、定員 45 名のところ参加者は 16 名と少なく少し不満が残る人数であった。

これは、時間的な余裕がなく同報メールやHPでの参加の呼びかけが遅れたことも理由のひとつと考えられる。

ただ、目的とした各自の新しい交流チャンネルの探索という目的は少なからず果たせたと感じた。来年は参加者を増やす工夫を行いたい。

(大由 西幸)

以上

(中村 弘 記)

青年技術士交流実行委員会 1 月度月例会報告

- 日 時：2006 年 1 月 28 日（土）17：00～19：00
- 場 所：日本技術士会荻手ビル会議室 AB
- 参加者： 27 名（新年会 22 名）
- 内 容：「青年技術士委員会の今年度海外交流成果 発表会」
 1. 海外派遣の取り組みについて
 - ・発表：野村 貢
 - ・青年技術士懇談会からの海外交流実績について、2002 年度からの実績を紹介した。
 2. 日韓会議参加報告
 - ・発表者：平野輝美、前田秀一
 - ・2003 年度の日韓会議に遡り、日韓青年の交流について経過の説明があった（平野）。
 - ・今年度の青年技術士分科会開催について、経緯説明があった（平野）。
 - ・今年度の日韓会議（全体）について、経過説明があった（前田）。
 - ・青年技術士分科会（第 6 分科会）の内容について、報告があった（前田）。
 3. CAFEQ、YEAFAQ 参加報告
 - ・発表者：倉井真里、宮坂好彦
 - ・今年度の CAFEQ、YEAFAQ について、参加概要説明があった（倉井）。
 - ・CAFEQ 会議について、セッション概要と発表経過の説明があった（宮坂）。
 - ・YEAFAQ 会議について、セッション概要と発表経過の説明があった（倉井）。
 4. 青年技術士の海外交流
 - ・発表者：田村裕美、野村 貢
 - ・2005 年度のマレーシア技術者訪問による交流実績およびこれまでの交流から発展している交流状況についての発表があった（田村）。
 - ・2002 年度実施の香港・マカオ青年技術士との大陸研修旅行について、代理の発表があった（伊藤の代理⇒野村）。
 - ・これまでの海外交流を踏まえた今後の課題として、以下が示された。
 - ◇地方会員を始めとする参加者の拡大
 - ◇公募など派遣のしくみ整備
 - ◇交流のための資金確保
 - ◇日本に招く企画の創出
 5. 新年会
 - ・月例会に引き続き、新年会が盛大に催された。

（野村 貢 記）

青年技術士交流実行委員会 2 月度月例会報告

- 日 時：2006 年 2 月 1 日（水）14：00～15：50
- 場 所：独立行政法人 造幣局東京支局（東京工場）
- 参加者： 52 名
- 内 容：「造幣局東京支局（東京工場）見学会」

1. 挨拶

発表者：中村 弘

開催宣言、青年技術士交流実行委員会の活動資料配布。

2. 造幣局職員挨拶、事業紹介ビデオ上映

造幣局沿革、支局沿革

貨幣あれこれ

貨幣製造工程

勲章、喪章の製造工程

貴金属製品の品位証明（ホールマーク）

3. 博物館見学

貨幣製造工程の紹介、貨幣・勲章等の観賞

4. 工場見学

勲章、プルーフ貨幣製造工程

売店見学

販売品は以下の通り

各種プルーフ貨幣セット

しおり、勲章型アクセサリ

貨幣型お菓子（瓦煎餅）（※ 一番人気 15 名程度の人が購入）

6. 質問コーナー

参加者より活発な質疑があり担当者が困るシーンもあった。以下項目のみ記す。

偽造防止方法、工場稼働率、製造コストがペイする貨幣、プルーフ貨幣セットの原価 etc

7. 感想

造幣局は貨幣のみで紙幣は印刷局で製造していることから始まり、プルーフ貨幣セットの宣伝で終わった見学会であった。参加者は技術士らしく製造技術に関することに質問や話が集中していたが小生は正直、自然に貨幣の知識が得られて普通に楽しめた気がする。

また独立行政法人となり、キャラクター等の新しい貨幣セットの宣伝を行なっているのは時代の流れを感じた。

詳細は造幣局のHPを参照してください。（<http://www.mint.go.jp/index.html>）

以上

（中村 弘 記）

青年技術士交流実行委員会 3 月度月例会報告

■ 日 時：2006 年 3 月 4 日（土）10：30～20：00

■ 場 所：日本技術士会茸手ビル会議室 A～D

■ 参加者：33 名（20 代～30 代が中心）

■ 内 容：修習技術者向け例会

テーマ：「次のステージへ・・・見つけよう！新しい世界と新しい自分」

<AM>

1. 講演会

① 指導技術士から伝えたいこと（講演者 技術士 電気電子：永田 一良 氏）

② 若手技術士による新二次試験合格者体験談（講演者 技術士 建設：井上 譲 氏）

<PM>

2. グループディスカッション

参加者は 1 班 6 名程度に分かれディスカッションを行った。提示された 3 つの課題からディスカッションするテーマ 1 つを自分達で決定し、各テーマの課題設定に沿ってディスカッションを行った。議論の内容を整理し結論付け、最終的に OHP を使用して 10 分弱の発表を行った。基本的に全てを参加者が自分達の意志で自主的に行ってもらった。参加者は非常に積極的で、2 時間の議論時間が足りない程に討論を交わしていたのが印象的であった。

各班にはテーマ設定から議論方法、まとめ方など全体をコーディネートするために各班 1～2 名の技術士が付き、適時指導した。

提示したディスカッションテーマ

① 愛知万博は日本にとって何を残したのか？－技術者の視点から－

② スペースコロニーを作ろう

③ 追いかけていたことが見つかったときに必要な行動

参加者の班 5 班、補佐の班 1 班の計 6 班で行われた。①を選択した班は 1 班、②は 3 班、③は 2 班であった。

・ディスカッション 120 分

・発表 各班 10 分（質疑応答含む）

・発表後の反会 30 分

<懇親会>

同会場で懇親会を行った。参加者、コーディネータの技術士、企画者の委員補佐達が積極的に名刺交換して交流がなされていた。参加者が若かったこともあり、最後の最後まで非常に盛り上がり、場所を移しての交流も行われた・・・

（高田 準三 記）

青年委員会 4 月例会 Workshop with Mr. Steven Ashton

■日時：4/10/2006 18:00-21:00

■場所：茸手第二ビル 5F AB 会議室

■講師：Steven Ashton

■プログラム：

18:30-18:35 イン트로ダクション

18:35-20:00 ワークショップ “How to Make an Effective Presentation”

20:00-20:10 コーヒーブレイク

20:10-20:50 ボランティアによるショートプレゼンテーション

20:50-21:00 講師総評

21:00- 有志による懇親会

青年委員会では、一流の英語教師である Steven Ashton 氏を招いて、ワークショップを開催致しました。Ashton 氏および参加者の熱意と積極性のおかげで、みなが素晴らしい経験をしたと思っております。



April 10th 2006

Monthly Meeting of April 2006	
Young Engineers' Committee	
The Institution of Professional Engineers, Japan (IPEJ)	
Date: April 10th 2006, 18:30-20:30	
Venue: Room AB 5F Fukite 2 Building	
Lecturer: Steven Ashton	
Programme:	
18:30-18:35 Introduction	
18:35-20:00 Workshop with Mr. Steven Ashton	
"How to Make an Effective Presentation"	
20:00-20:10 Coffee Break	
20:10-20:50 Short Presentations by Volunteers and Discussion	
20:50-21:00 Comments in Brief from Mr. Steven Ashton	
21:00- Followed by Get-together	
The Young Engineers Committee of the IPEJ had a workshop with Mr. Steven Ashton who is the one of best English teacher. Thanks to the enthusiasm and commitment by Mr. Ashton and those in attendance, it was a really fantastic experience for all of us.	
結果報告	
結果報告	
結果報告	

ワーキンググループ紹介

青年技術士交流実行委員会 サブグループ活動 活動報告

サブグループ名	政策対応グループ
グループメンバー (○印：グループリーダー)	○ 野村 貢、小松秀次、久保康弘、平野輝美
グループの目的・活動の趣旨	本グループは、委員会執行部としての活動とともに、政策委員会、会員拡大・技術士活性化推進特別委員会から求められる活動を具体化し、WG 活動への落とし込みを行くことを目的としている。
今期の活動内容	【政策委員会への活動報告、意見交換】 2006年1月13日（金）参加者：野村、小松、久保、平野 ・ 委員長交代（石井⇒野村）に関する経緯、交代後の運営方針について説明 ・ 永田（政策委員会）委員長、岩熊小委員会委員長ほかから、当委員会に大しての活動要望と意見交換 2006年5月25日（木）参加者：野村、平野、掛川、園家、前田 ・ 1月以降の委員会活動について報告 ・ 全国大会分科会、日韓会議（分科会、サッカー交流）についての中間報告 ・ 日韓会議、CAFE0/YEAFE0等の海外交流活動に対しての支援（主として財政的支援）のお願い ・ 技術士会ロゴ変更についての打合せ （5月2日小委員会協議にて、青年委員会がロゴ変更企画の主動を担うことを依頼され、委員会として受諾した） 【会員拡大・技術士活性化推進特別委員会への参加】 ・ 野村が当該特別委員会の委員を引き継ぎ（石井⇒野村）、定例委員会に参加（基本的に毎月） 【ロゴ変更WG】 ・ 技術士会ロゴ変更企画について委員会として活動するため、WGを立ち上げた（WGリーダー：中村）。 ・ 月刊誌、HP意見聴取からスタートし、2007年2月を目途に改定案を取りまとめる
活動成果	・ 本委員会は、政策委員会ははじめ、技術士会からの要望事項を整理し、活動に反映すること、および当委員会の要望事項ひいては青年技術者全体の技術士会への要望事項を集積し、発信する役割を担っている。この点については、当面必要とされる活動性は得られた。
今後の予定・展開	・ 会全体が抱える問題としての組織率向上に対して、青年層の動向や志向を積極的に発信する活動が求められる。 ・ 海外交流活動は一定成果を上げているので、これを継続的に実施する体制、財政的支援など委員会の活動継続性確保のための仕組み作りが求められている。
その他	・ 本支部共に、世代交代の合理的なシステムに悩んでいる。 ・ 今期は支部発信の企画として北海道から「テクノツーリズム構想」があった。支部発信の事業を推進する仕組み作りにより、本支部連携の促進が期待される。

ワーキンググループ紹介

サブグループ名	月例会支援グループ																																								
グループメンバー (○印：グループリーダー)	○木下 英也、中村 弘																																								
グループの目的・活動の趣旨	所属する部門にかかわらず、青年技術士&士補間での技術交流、意見交換、親睦の場を活性化する。 有意義な企画立案、効果的な広報活動を支援することにより、参加者の増加および技術士の知名度向上に努める。																																								
今期の活動内容	<table><tr><th>開催日</th><th>場所</th><th>時間</th><th>イベント名</th><th>コンセプト(趣旨)</th></tr><tr><td>'05.10.23(日) - '05.10.24(月)</td><td>韓国・全州</td><td>*</td><td>日本&韓国 青年技術士 サッカー大会 技術交流会</td><td>国際交流 (日本&韓国 青年技術士交流)</td></tr><tr><td>'05.11.19(土) - '05.11.20(日)</td><td>NTT 麻布セミナー ハウス</td><td>13:00 - 16:30</td><td>第18回 修習技術者 研修セミナー</td><td>修習技術者研修支援</td></tr><tr><td>'05.12.3(土)</td><td>機械振興会館 B3-6</td><td>14:00 - 17:00</td><td>委員会開催 & 忘年会</td><td>青年技術士交流実行委員会組織再結成</td></tr><tr><td>06.01.28(土)</td><td>葦出第2ビル A・B会議室</td><td>17:00 - 19:00</td><td>成果発表会</td><td>1) 海外派遣の取り組みについて 2) 日韓会議参加報告 3) CAFEQ、YEAFO参加報告 4) 青年技術士の海外交流 5) 新年会</td></tr><tr><td>'06.02.01(水)</td><td>独立行政法人 遠隔局 東京支局</td><td>14:00 - 16:00</td><td>見学会</td><td>遠隔局東京支局(東京工場)の博物館、工場見学 〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-42-1 (TEL03-3987-3153)</td></tr><tr><td>'06.03.04(土)</td><td>葦手第2ビル A・D会議室</td><td>10:30 - 20:00</td><td>修習技術者例会 平成17年度 青年技術士交流 実行委員会</td><td>テーマ:「次のステージ...見つけよう!新しい世界と新しい自分」 1) 講演: 修習期間の過ごし方、ある技術士の仕事ぶり 2) グループディスカッション(討論会、発表、参加者の反省会) 3) 懇親会: 新合格者、若手技術者とのネットワークを広げよう!</td></tr><tr><td>'06.04.10(月)</td><td>葦出第2ビル A・B会議室</td><td>18:30 - 20:30</td><td>講演会</td><td>講演+ディスカッション 「技術者の国際会議におけるプレゼンテーション」 Steven Ashton (元NHK英会話講師) 会費: 1,000円</td></tr></table>	開催日	場所	時間	イベント名	コンセプト(趣旨)	'05.10.23(日) - '05.10.24(月)	韓国・全州	*	日本&韓国 青年技術士 サッカー大会 技術交流会	国際交流 (日本&韓国 青年技術士交流)	'05.11.19(土) - '05.11.20(日)	NTT 麻布セミナー ハウス	13:00 - 16:30	第18回 修習技術者 研修セミナー	修習技術者研修支援	'05.12.3(土)	機械振興会館 B3-6	14:00 - 17:00	委員会開催 & 忘年会	青年技術士交流実行委員会組織再結成	06.01.28(土)	葦出第2ビル A・B会議室	17:00 - 19:00	成果発表会	1) 海外派遣の取り組みについて 2) 日韓会議参加報告 3) CAFEQ、YEAFO参加報告 4) 青年技術士の海外交流 5) 新年会	'06.02.01(水)	独立行政法人 遠隔局 東京支局	14:00 - 16:00	見学会	遠隔局東京支局(東京工場)の博物館、工場見学 〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-42-1 (TEL03-3987-3153)	'06.03.04(土)	葦手第2ビル A・D会議室	10:30 - 20:00	修習技術者例会 平成17年度 青年技術士交流 実行委員会	テーマ:「次のステージ...見つけよう!新しい世界と新しい自分」 1) 講演: 修習期間の過ごし方、ある技術士の仕事ぶり 2) グループディスカッション(討論会、発表、参加者の反省会) 3) 懇親会: 新合格者、若手技術者とのネットワークを広げよう!	'06.04.10(月)	葦出第2ビル A・B会議室	18:30 - 20:30	講演会	講演+ディスカッション 「技術者の国際会議におけるプレゼンテーション」 Steven Ashton (元NHK英会話講師) 会費: 1,000円
開催日	場所	時間	イベント名	コンセプト(趣旨)																																					
'05.10.23(日) - '05.10.24(月)	韓国・全州	*	日本&韓国 青年技術士 サッカー大会 技術交流会	国際交流 (日本&韓国 青年技術士交流)																																					
'05.11.19(土) - '05.11.20(日)	NTT 麻布セミナー ハウス	13:00 - 16:30	第18回 修習技術者 研修セミナー	修習技術者研修支援																																					
'05.12.3(土)	機械振興会館 B3-6	14:00 - 17:00	委員会開催 & 忘年会	青年技術士交流実行委員会組織再結成																																					
06.01.28(土)	葦出第2ビル A・B会議室	17:00 - 19:00	成果発表会	1) 海外派遣の取り組みについて 2) 日韓会議参加報告 3) CAFEQ、YEAFO参加報告 4) 青年技術士の海外交流 5) 新年会																																					
'06.02.01(水)	独立行政法人 遠隔局 東京支局	14:00 - 16:00	見学会	遠隔局東京支局(東京工場)の博物館、工場見学 〒170-0013 東京都豊島区東池袋4-42-1 (TEL03-3987-3153)																																					
'06.03.04(土)	葦手第2ビル A・D会議室	10:30 - 20:00	修習技術者例会 平成17年度 青年技術士交流 実行委員会	テーマ:「次のステージ...見つけよう!新しい世界と新しい自分」 1) 講演: 修習期間の過ごし方、ある技術士の仕事ぶり 2) グループディスカッション(討論会、発表、参加者の反省会) 3) 懇親会: 新合格者、若手技術者とのネットワークを広げよう!																																					
'06.04.10(月)	葦出第2ビル A・B会議室	18:30 - 20:30	講演会	講演+ディスカッション 「技術者の国際会議におけるプレゼンテーション」 Steven Ashton (元NHK英会話講師) 会費: 1,000円																																					
活動成果	2005年は組織運営上の問題もあり例会開催にも混乱が生じたが、軌道修正を行い、2006年1月より月例会を復活させることができた。 1) 計画的な月例会運営 例会マニュアルに準じて、3ヶ月前には幹事を決定し、企画立案および準備を開始することが定着してきている。 2) 参加者の増大 青年委員会活動の活性化により、魅力的な月例会が増加し参加者も増大傾向となっている。 3) 効果的な広報 開催情報&報告書等のHP、同胞メール、月刊誌へのタイムリーな掲載の進展により、青年技術士活動の知名度も確実に向上している。																																								
今後の予定・展開	7月例会 幹事：青木委員 【テーマ】技術士と話そう／国際交流勉強説明会 【日時】2006年7月29日(土) 13:00～ 【場所】葦出第2ビルAB 【内容】第一部 「国際交流勉強説明会」、第二部 技術士と話そう 技術士に興味を持っている技術士予備軍に、現役の技術士とざっくばらんに話す機会を提供し、技術士に対する具体的なイメージを持ってもらい、また、疑問点の解決等を狙う。																																								
その他	更なる活性化のために魅力的な月例会を企画していくと共に、開催日・場所・時間等も考慮していく必要がある。 今限りで私(木下：経工部門)は青年委員を退任するため、例会支援業務を中村委員へ引継ぎます。在任中に月例会の広報・連絡ルートの確立および例会運営マニュアルを作成することができ、執行部および月例会幹事の方々に心からお礼を申し上げます。今後とも魅力的な月例会企画、宜しく願います。																																								



ワーキンググループ紹介

サブグループ名	修習技術者グループ
グループメンバー (○印：グループリーダー)	○ 新井靖典、黒澤之、青木ゆかり、委員補佐（Ａ）、委員補佐（Ｂ）
グループの目的・活動の趣旨	若手修習技術者の支援を目的として、「修習技術者支援実行委員会」との協力関係を機軸に、各種行事の共催や企画運営を協力するとともに、青年技術士交流実行委員会独自事業として、修習技術者対象のイベントを企画する。
今期の活動内容	(１) 修習技術者研修セミナーへの協力 「修習技術者支援実行委員会」主催で平成１７年１１月に実施された『修習技術者研修セミナー』において、パネルディスカッションとグループ討議の企画運営を行うとともに、グループ討議をサポートするためのコーディネータを派遣した。 (２) 技術士第一次試験合格者歓迎会への協力 『技術士第一次試験合格者歓迎会』におけるパネルディスカッションの企画運営を実施した。 (３) 『若手技術者のための例会』の企画運営 当委員会の委員補佐による企画運営のもと、主に修習技術者を対象とした例会を平成１８年３月に開催した。 (４) 修習技術者支援実行委員会との関係強化 月に一度開かれている「修習技術者支援実行委員会」への出席を通して、当該委員会との密なコミュニケーションをとり、１１月の『修習技術者研修セミナー』と『技術士第一次試験合格者歓迎会』の企画運営に協力した。
活動成果	「修習技術者支援実行委員会」との共催・協力事業である、『修習技術者研修セミナー』の企画運営および人員の派遣、『技術士第一次試験合格者歓迎会』におけるパネルディスカッションの企画運営を行った。 また、委員補佐の活発な活動により、例年実施している修習技術者による『修習技術者のための例会』を３月に行った。この例会では、技術士と参加者が昼食をとりながら歓談するパワーランチや、グループディスカッションに技術的課題をテーマとして設定するなどこれまでにない新しい試みがみられた。
今後の予定・展開	(１) 修習技術者を対象としたイベントの強化 これまで、修習技術者を対象とした例会は３月に実施される『修習技術者のための例会』があるが、今後も増加が見込まれる修習技術者を支援するため、新たなイベントの企画運営を模索する。 (２) 本部における修習技術者の状況把握 本部においては、修習技術者にも、「委員補佐制度」を通して、委員会の運営に積極的な参加を得ているところであるが、支部における修習技術者の状況を把握し、本部・支部間における修習技術者の相互交流を促進させるためのバックアップ体制等を構築する。 (３) 修習技術者支援実行委員会との連携 「修習技術者支援実行委員会」とは当委員会の前身である「青年技術士懇談会」の時代から緊密な連携関係を持っていた。当委員会が実行委員会になったことで、同じ実行委員会である「修習技術者支援実行委員会」との連携のあり方や役割の明確化について議論する。 これまで、１１月の『修習技術者研修セミナー』、『技術士第一次試験合格者歓迎会』等で協力しているが、若手修習技術者支援の観点から、両委員会の役割分担のもと連携・協力関係を強化する。
その他	特になし

ワーキンググループ紹介



ワーキンググループ紹介

サブグループ名	広報
グループメンバー (○印：グループリーダー)	○ 清田、高木
グループの目的・活動の趣旨	・ 青年委員会の紹介、活動報告、例会案内を目的としたＨＰの整備 ・ 青年委員会委員・委員補佐を対象としたメーリングリストの整備
今期の活動内容	・ ＨＰを作成、運用を開始させた。 http://www.engineer.or.jp/cmtty/seinen/ ・ 運用されているコンテンツは、青年委員会一般情報、活動報告、行事予定である。 ・ 英語版も同時に開始 ・ ＨＰサーバーを事務局サーバーに集約した ・ メーリングリストを整備、運用を開始させた
活動成果	・ 一般会員に対する青年委員会の広報をより効果的に行えるようになった。 ・ 英語版を整備したことで、ＣＡＦＥＯ等で交流を持った海外の技術者協会にも青年委員会の活動を紹介できるようになった。
今後の予定・展開	・ メンバー紹介、リンク等の整備 ・ 英語版の青年委員会紹介の充実
その他	・ ＨＰは委員による活動報告がメインコンテンツであるが、報告書作成に対しなかなか協力が得られない委員もいる。 ・ 一方、不慣れな英語版の報告にも誠意を持って作成していただいた委員もいた。

野村 貢

技 術 部 門：総合技術監理部門、建設部門

役 割：委員長

勤 務 先 等：株式会社 建設技術研究所 東京本社

専 門 技 術：トンネル、道路計画

趣味・特技：トンネル掘り



メッセージ：

昨年 6 月に伝統ある青年技術士懇談会の幕を引き、実行委員会に改組するとともに自分もフェードアウトしようと目論んでいましたが、結局栄えある第一期委員長という役割を頂きました。

どんな組織であれ、1 年目というのはいろいろあるものです。青年技術士交流実行委員会には期待されるところも大きいのですが、方向性を定めるのと、定例的な運営を軌道に乗せるところまでが今期の到達点でした。来期はこれをベースに大きく羽ばたいていきましょう。

個人的には忙しいだけの日々を送っていますが、子どもが全寮制の中学に進学して夫婦 2 人の生活が戻ってきたり、人形町（会社のある辺り）の深夜探検で遭難したりと刺激には事欠きません。

委員長を退任したら、お約束があります。それは青技懇 OB 会。「中年技術士懇談会」いや青技懇シニアを始めようとずっと言っていますので、まずはこれかな。

楽しく苦しい委員長ライフを綴ったブログもやってます。こっちも見てね。

<http://blog.goo.ne.jp/nom1net/>

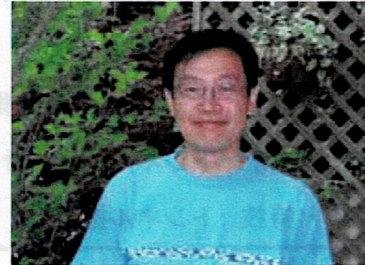
小松 秀次

技術部門：建設部門

役 割：副委員長

勤務先等：株式会社石勝エクステリア

専門技術：環境緑化（樹木診断・治療、
屋上緑化等の都市緑化技術）



趣味・特技：釣り、仕事以外の庭いじり、お酒

メッセージ： 青年技術士交流実行会委員会の世話役をしています。

若手技術者の部門を越えた交流の場である、青年技術士交流実行会委員会の世話役をしています。

副インチャローとはいってもたいしたことは出来ず、主に場を盛り上げる宴会部長と自称しております。

40歳前後は公私においてモーレツに忙しい時期ですが、当委員会に参加して自分を一歩離れたところから見る事が出来るようになりました。

仕事で煮詰まっている方、情報収集したい方、モチベーションを上げたい方、是非参加して下さい！

平野 輝美

技 術 部 門：化学部門

役 割：副委員長（日韓技術士会議担当）

勤 務 先 等：平野技術士事務所

専 門 技 術：ナノセラミックス応用，知財活用支援，
経営コンサルティング他



趣味・特技：読書（漫画），インスタントラーメンの食味評価

メッセージ：

技術士事務所として活動させて頂いております。

青年技術士懇談会は，技術士業務を個人で実施してきた先達を多く輩出しており，長い歴史を持ちます。その独立／自営の思いを勝手に継続していこうと，これまた勝手に七転八倒の毎日を送っております。慣れない業務開拓に汗と涙を流し，中小企業の社長に叱られながら業務を継続しております。自営技術士はなかなか大変です。皆様よろしくお願いいたします。

今年は，青年技術士懇談会から青年技術士交流実行委員会へと大きく変化した年でした。

2年前に日韓技術士会議で朴さんと握手してしまったことからのいきさつを引き継ぎ，韓国技術士会，韓国技術士会青年委員会との連携と交流を図っていこうと考えております。

国際交流は，日本技術士会および青年技術士交流実行委員会の主要な活動志向であります。近隣国である韓国は，歴史的にも深い交流があります。技術士レベルでも積極的な交流を図っていこうと，相互に試行錯誤を行っている状況です。青年技術士レベルにおいて，懇親を継続していくことが重要でしょう。皆様の積極的な参加を得て，交流を発展させましょう。

前田 秀一

技術部門：化学部門、総合技術監理部門

役割：会計

勤務先等：王子製紙株式会社

専門技術：情報用紙、電子ペーパー、高分子コロイド、
導電性高分子

趣味・特技：電子書籍端末による乱読、弓道、空手

メッセージ：

青年委員会という個性的なメンバーの中に入ると、会社ではそれなりに変わり者の私も、急に自分が平凡な人間に思えてきます。もっとも、金太郎飴のようにどこを切っても同じ顔しかない金太郎型のソサエティよりも、犬がいて雉がいて猿がいる桃太郎型のソサエティの方が活力があり飛躍を期待できます。

技術士会に入られた45未満の方々は、是非、青年委員会で自分の個性と若さを爆発させてください。

黒澤 之

技術部門：建設部門、総合技術監理部門

役割：若手技術者支援

勤務先等：横浜市資源循環局勤務

(財)日本環境衛生センター研修部客員講師（廃棄物管理）

東京大学公共政策大学院客員講師（法学系行政統制論）

専門技術：都市計画及び地方計画（交通施設）

趣味・特技：世界交通学会創設会員

土木学会認定上級技術者（環境）

硬筆書道教室免状、護身道準指導員



メッセージ：

やっていて無駄になることなどありません。



青木 ゆかり

技 術 部 門：情報工学部門、総合技術監理部門

役 割：修習技術者

勤 務 先 等：株式会社日本総合研究所

専 門 技 術：情報システムの企画等

趣味・特技：おいしいものを食べること、食べ物の本を読むこと

メッセージ：

「青年」なんて呼んでももらえるのはここくらい。名前(?) 負けしないようにがんばります。

新井 靖典

技 術 部 門：建設部門

役 割：修習技術者WG

勤 務 先 等：西武建設株式会社 事業本部 技術設計部 環境エンジニアリング室

専 門 技 術：廃棄物処分場

趣味・特技：ゴルフ、ダーツ、楽しくお酒を飲むこと、英会話（特訓中!）

メッセージ：

平成17年度は修習技術者WG 担当として活動してきました。11月の修習セミナーでは、グループディスカッションのコーディネータを初体験。1次合格者歓迎会では技術士として初めて自分の体験をパネリストとして語りました。3月の『若手技術者のための例会』では司会を拝命するなど、何かと人前で話す機会の多かった1年だったなと感じています。もともと、人前で話すのはあまり得意な方ではないので、こういった機会を提供してくれる青年委員会活動に感謝しています。

これまでを振り返ると、私は教える側よりも、教えられる側にいることが圧倒的に多かったように感じますが、気がつけば社会に出て約10年が経過し若手と呼ばれる年齢ではなくなってきました。自分自身、まだまだ学ぶことは多いのですが、今後は自分が学んできた事を社会にフィードバックしていくような事を視野に入れながら活動していければと考えています。

みなさん今後ともよろしくお願いします。



委員・委員補佐紹介

中村 弘

技 術 部 門：水産部門

役 割：例会支援？

勤 務 先 等：オルガノダニスコフードテクノ株式会社

専 門 技 術：加工食品の新製品開発、食品材料の利用開発、食品のマーケティング

趣味・特技：食べ歩き、飲み歩き

メッセージ：

委員の中村です。活動は効率的にしかし確実に行いたいと思っています。

私は職業柄、食べることを中心に生活しています。

ここ何年かエンゲル係数と体重は急激な上昇カーブを描いていますが体力は衰えてくるばかり。

また最近の新しい友達はメタボリックシンドローム。とはいえ、まだまだ色々な食べ物に恋をしていますので美味しいお店があればお誘いください。

掛川 昌俊

技 術 部 門：衛生工学、総合技術監理部門

役 割：全国大会主査

勤 務 先 等：新宿 NS ビル（株）

専 門 技 術：建築設備、エネルギー関連技術

趣味・特技：絵画鑑賞、ラグビー観戦

メッセージ：

Create Knowledge and Produce the Future



椿谷 敏雄

技 術 部 門：建設部門

役 割：北海道支部代表

勤 務 先 等：北海道庁

専 門 技 術：都市及び地方計画

趣味・特技：マラソン



支部からのメッセージ

- （はじめに）
 - ・ 北海道の青年技術士協議会（通称 青技協）会長の椿谷と申します。
 - ・ 北海道の青技協は 1989 年設立で、今年で 18 年目を迎えています。
 - ・ 現在は第 9 期の役員体制で、これまで 7 名の会長がバトンタッチをしてきました。
 - ・ 原則 45 歳以下が会員の条件ですので、次の 8 人目に席を譲る時期を迎えています。
 - ・ それまでの短い間と思いますが、会ともどもよろしくお願いします。
- （会の活動）
 - ・ 我が青技協では、様々な活動を通じて自己研鑽、会員交流を図っています。
 - ・ 定期的な研修会や研究会の実施、全国交流の推進等の活動の他、会員の相互の情報交換ツールとして「EPO」と呼ぶメーリングリストを運営しています。
- （北海道自慢）
 - ・ 先日、このメーリングリスト上で北海道の「はつもの 1 番」情報が飛び交いました。
 - ・ せっかくの機会ですのでこの場をお借りして、北海道自慢をいたします。
 - ◆ 国産ストーブ第 1 号（1856）
 - ・ 1856 年。函館の高田屋嘉兵衛資料館に復元があります。
 - ◆ 気象観測の始まり
 - ・ 1872 年（明治 5 年）、開拓使が函館で最初の観測所を開設しました。
 - ◆ 日本で最初の缶詰
 - ・ 明治 10 年、石狩川でとれたサケを原料に缶詰製造が開始されました。
 - ◆ 日本初の男子修道院
 - ・ 明示 9 年、日本最初の男子修道院「トラピスト修道院」が北斗市に創設。
 - ◆ 日本最古の木製サイロ
 - ・ 安平町（早来町）の山田牧場に日本最古の木製サイロがあります。
 - ◆ 日本最古の鉄筋コンクリート造りの寺院
 - ・ 函館市にある東本願寺函館別院です。
 - ◆ パークゴルフ発祥の地
 - ・ 昭和 22 年、芽室町で考案。
 - ◆ ゲートボール発祥の地
 - ・ 昭和 58 年、幕別町で公園活用を目的として誕生しました。
- （全国交流に向けて）
 - ・ やはり「試される大地・北海道」ではハツモノが多くありました。
 - ・ かくゆう我々青技協も、技術士全国大会における初の青年分科会の実施（平成 16 年度）により全国支部交流の魁を築き上げたと自負しています。

これからも本部の青年技術士実行交流委員会の活動を通じて、全国交流を進めていきましょう。

藤川 洋一

技 術 部 門：建設／総合技術部門

役 割：東北支部代表幹事

勤 務 先 等：株式会社 東京建設コンサルタント 東北支店

専 門 技 術：道路構築に関する設計他

趣味・特技：最近肥満解消のため、週末スポーツジムに通っています（悲しいかな、趣味特技特になし）

支部からのメッセージ

1. 東北支部の運営幹事

役 職	氏 名	部 門	役 職	氏 名	部 門
代表幹事	藤川洋一	建設、総合技術監理	幹事	早川勝久	建設、総合技術監理
副代表幹事	三浦康二	電気・電子	幹事	桂 利治	建設、総合技術監理
副代表幹事	佐々木貢	建設	幹事	飯島正顕	建設
幹事	門間 隆	農業、総合技術監理	幹事	久保善央	水道
幹事	武田光弘	建設、総合技術監理	幹事	磯部 滋	建設
幹事	舟山重則	建設	幹事	前田知彦	建設、総合技術監理
幹事	藤原直樹	建設、総合技術監理	幹事(岩手)	牧野 仁	建設

2. 平成 18 年度活動予定

(1) 第 1 回研修会

- ① 日時：平成 18 年 6 月 21 日
- ② 場所：宮城県土地改良団体連合会 5 F 会議
- ③ 活動内容：研修会

講師：東北大学大学院 新妻弘明教授

演題：地域のための地域のエネルギー：E I M Y

(2) 第 2 回研修会

- ① 日時：平成 18 年 7 月下旬
- ② 場所：宮城県土地改良団体連合会 5 F 会議
- ③ 活動内容：研修会

講師：国土交通省東北地方整備局企画部環境調整官

演題：(仮称) 海外における危機管理

(3) 現場見学会

- ① 日時：平成 18 年 9 月中旬
- ② 場所：未定
- ③ 活動内容：現場見学会

(4) 第 3 回研修会

- ① 日時：平成 18 年 12 月中旬
- ② 場所：未定
- ③ 活動内容：研修会（東北支部青年技術士懇談会 10 周年記念講演予定）

3. 東北支部の課題（克服テーマ）

・幹事の後継者不足。研修会における若手技術者の参加の低下。（会員拡大も含めて切実なところだ。）

・活動が仙台中心に偏っている現状。（各県の若手を我々の活動に引き込むため、それぞれの代表幹事に若手を推薦して戴いている状況です。現在進行形。）

・今年度は当会結成 10 周年となりますので、これまでの先輩技術士へ節目の会を企画・実行



濱田 常雄

技 術 部 門：建設部門

役 割：中部支部代表（中部支部幹事・技術委員会委員、中部青年技術士会副会長）

勤 務 先 等：株式会社 新 日 企画統括本部

専 門 技 術：都市及び地方計画（地域計画、区画整理）

趣味・特技：野球・ゴルフ及びスポーツ観戦

支部からのメッセージ

中部青年技術士会は、1986年（昭和61年）1月18日に旗揚げし、今年で創立20周年を迎えることができました。2月25日には、青年技術士交流実行委員会 野村貢委員長をはじめ各支部代表の皆様にもご参加いただきまして、二十歳の誕生日会と同窓会が一緒になった記念の会を催すことができましたこと、あらためてお礼申し上げます。誠にありがとうございました。また、その夜の身内だけによる二次会では、

中部らしく控えめで静かな会になってしまいご期待に沿うことができなかったかもしれませんが、年に一度は皆様とお会いできたことは最高でした。各支部のみなさんの企画にも期待しています。

さて、各支部のみなさん！！ 元気、元気を言われる中部の秘訣は、“自発性・自主性”、“創意工夫”そして“自由闊達さ”という当会の伝統であり、自由な気風を大切にしていることだと思っています。このための具体策には、対外的な活動を行おうとするグループに対し、中部青年技術士会の名称を用いるルールを明示していることなどがあげられます。そして、その自由な活動を通じて当会の発展を図ることを会員自ら行っていると自負しています。以下に、中部青年技術士会の役員を紹介致します。今年度の役員は24名中10名が士補・修習と若返りを図り、新たなスタートがきれたと思っております。ご期待下さい！！

会 長 比屋根 均（総合技術監理、衛生工学）

副会長 坪内 恭史（総合技術監理、経営工学、建設） / 副会長 濱田 常雄 （建設）

理 事（順不同）

栗本 和明（建設） / 山西 孝二（総合技術監理、建設） / 澤田 謙二（建設） /

大石 直樹（総合技術監理、機械） / 永見 正行（総合技術監理、建設） /

西垣 治郎（上下水道） / 平松 明子（環境、建設） / 武藤真一郎（士補：情報工学）

/ 石川 智康（修習：情報工学） / 進 善隆（建設） / 浦田 学（修習：情報工学） /

幡野 貴之（建設） / 小宮 伸治（修習：機械） / 桑野 雅裕（修習：建設） /

西崎 陽介（士補：生物工学） / 坪内 剛史（総合技術監理、機械） /

中村 大治（修習：機械） / 黒江 隆太（士補：環境） / 澤 誠治（化学） /

羽田 拓朗（修習：情報工学） / 秋山幸之朗（士補：機械、修習：情報工学、航空宇宙）



森岡 敬士

技 術 部 門：建設部門

役 割：中四国支部代表（平成18年5月まで）

勤 務 先 等：株式会社 ヒロコン

専 門 技 術：道路計画

趣味・特技：格闘技観戦・プラモデル作成

メッセージ：

中四国支部では、MLを中心に情報交換・連絡をとり、毎月1回（第2水曜日）支部会議室で例会を開催しています。毎回発表者を決めて、日頃の業務内容等について発表し、そのテーマに関連した演習を行っています。専門分野以外の事で、実際に鉛筆を持つのは、通常業務では機会がないため、新鮮である一方、頭を抱える事も多いです。

ロコミや合格祝賀会（一次・二次）等で勧誘した成果か、ML会員も50名近くになっています。例会の後の有志による懇親会では、年代も近いこともあって、多岐にわたる話題で盛り上がっています。

中四国支部は、今年度（平成18年度）からは、支部内はもちろん、他支部との交流も深めたいと思っています。

北海道での全国大会を機に、組織を立ち上げて今年で3年目になります。毎年全国大会等で、各支部の代表の方ともお会いする事が楽しみです。今年の東京、来年の北陸の後、平成20年度の全国大会は中四国支部で行われます。これまでの各支部に負けないよう、当支部でも青年部一同で各支部の皆様をお待ちしております。

大氏 正嗣

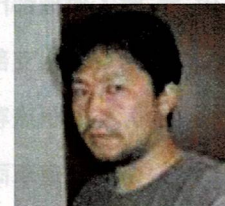
技 術 部 門：建設部門

役 割：近畿支部代表

勤 務 先 等：株式会社 デザイン・構造研究所

専 門 技 術：建築設計

趣味・特技：スポーツ全般・彫刻



支部からのメッセージ：

近畿青年技術士懇談会では、異分野の技術者がコミュニケーションを通して交流を深めていきたいと考えています。異なる技術間のコラボレーションを目指すのみならず、それぞれの専門分野の最前線で業務を遂行しているメンバーが集っており、その分野でのトピック情報の提供や、人間通しのつながりを通じて触発し合う関係を築くことを目指しています。

本年度も、大学との連携を図り、協同して公開市民セミナーを開催することを予定しています。特に、こうしたセミナーにおけるテーマは、専門技術に特化した内容ではなく一般市民の参加も想定した社会問題を中心にしたものとし、そこに技術者（技術士）がどのような役割を果たすことができるかについて、問いかけていきたいと考えています。

6 月には、最近大きな社会問題となった耐震偽装に関して、月例会において講演を計画しています。技術士はそれぞれ技術の専門家ではありますが、他分野の技術に関しては新聞報道等を通じての情報に頼らざるを得ないのが現実でしょう。しかし、他分野の技術者の情報を直接聞くことによって技術者としての知識の厚みを増すことができ、社会的な信用構築にも貢献できるものと考えています。

青年技術士交流実行委員会では、日本全国の青年技術者が集まって意見交換できる素晴らしい機会だと思います。特に、独立を指向される技術者の方にとっては、人的交流や情報交換は大きな意味を持つでしょう。たくさんの方が参加して、お互いに価値のある交流ができることを期待しています。

田辺 努

技 術 部 門：機械部門、総合技術監理部門

役 割：九州支部代表

勤 務 先 等：九州旅客鉄道株式会社

専 門 技 術：鉄道車両

趣味・特技：オートキャンプに凝っています

支部からのメッセージ：

九州では、青年技術士の組織としては、第7部会（支部青年部会）と青年技術士ネットワークという2つの組織があり、連携しながら活動しています。実際にはかなりのメンバーが重複しています。歴史的には青年技術士ネットワークの方が長く20年以上の活動歴があります。第7部会の方は技術士法の改正による修習技術者対応の必要性の高まり等を受け、2年ほど前に発足しました。

定例会を偶数月に行っており、年間テーマを設けて討論しています。ちなみに今年度のテーマは「安全・安心を築く技術」です。

また、12月には公開講演会も行っています。その年度のテーマに沿った基調講演とパネルディスカッションです。

青年技術士活動のよいところは、色んな分野の技術者が集まって意見交換をできることだと思います。

定例会の後はいつも近くの居酒屋でノミニュケーションを図ります（写真参照）。

一昨年の北海道での全国大会以来、定期的に全国の青年技術士が集まる機会ができたことは非常によいことだと思います。より視野と人脈が広がったと感じております。また他地区の活発な活動はよい刺激になっています。今後もこのような全国的なネットワークを大事にしていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。



齋藤 稔

技 術 部 門：機械部門（技術士補）

役 割：国際交流

勤 務 先 等：株式会社 藤精機製作所

専 門 技 術：材料力学、機械設計

趣味・特技：レーシングカート、スノボ、ガンブラ



メッセージ：

委員補佐を始めてもうすぐ4年・・・。

委員会とそのメンバーには、ほんとに成長させられました。

でも、そろそろ2次試験に合格しないとまじやばいです。

どんどん追い越されてしまいます。

田村 裕美

技 術 部 門：建設部門（技術士補）

役 割：国際交流

勤 務 先 等：三井金属資源開発株式会社

専 門 技 術：廃棄物処分場、(GIS)デジタル化

趣味・特技：農作業、釣り、ゴルフ(予定)、酒道



メッセージ：

昨年の委員会活動では、組織再生が勉強になりました。

得るものが、ここにはたくさん転がってます。

一緒にそれを見つけたり、拾ったりしませんか。

仕事だけで忙しい日々を過ごしている日本の技術者に、テキーラのチオビタ割みたいな美味しくて元気が出る活動を提供できればいいなと思っています。

倉井 真里

技術部門：建設部門

役割：国際交流

勤務先等：株式会社エコルシステム（(株)日比谷アメニスより出向）

専門技術：人工地盤上緑化、パークマネジメント、緑地環境評価

趣味・特技：楽器演奏（ピアノ歴27年）、庭いじり、食べること、散歩



メッセージ：

委員会のお手伝いをさせていただくようになって1年。最初はどうかかな～と思っていましたが、大方の予想とは裏腹に、いろいろな場にひょこひょこ参加した挙句、ラオスにまで行ってしまいました。

委員会活動を通して、さまざまなバックグラウンドを持つ方々に出会えたことが何よりも貴重だったと感じているので、今後参加する方たちにも、その経験を受け継いで行けたらいいな、と思います。

美術 村田

伊藤 英忠

技術部門：応用理学部門／環境部門（技術士補）

役割：支部交流WG

勤務先等：新地研工業株式会社

専門技術：地質調査

趣味・特技：史跡巡り（どこか博物館など、携わりたく思っています）

メッセージ：

ご無沙汰しています。以前は、ちょくちょく顔を出していましたが、現在はナカナカ都合がつかず、ややもどかしい思いもしています。

数年前から高校の同窓会などに出席したりして、同年代付近の人たちとネットワークを作っていくつつあるのですが、文系が多いのもうすこし理系が増えたらなぁという感じで、屋台なんかをウロウロ、ふらふらしています。

澤 剛

技 術 部 門：農業部門（技術士補）、応用理学部門（技術士補）

役 割：修習技術者

勤 務 先 等：清瀬市郷土博物館

専 門 技 術：地域博物館における自然科学的事項の事業への応用に関すること

趣味・特技：博物館・美術館見学、映画・音楽・演劇等鑑賞、寺社仏閣巡り、旅行

メッセージ：

時間の創り方がなかなか思うようにいかず、委員会の活動へはあまり参加できず申し訳なく思っております。しかし、青年技術士交流実行委員会は、同年代の方々と同じ目的や時間を共有することができる数少ない技術士会内の組織だと認識しており、日頃、技術者として活動する上での心の支えになっております。技術分野の枠を超えて交流しましょう！

さて、ここで少し文化関係のPR(?)をさせていただきます。職業柄、様々な文化及び文化活動に触れる機会があります。一見、そこには職人的技術・技巧だけがあるように思えます。しかし実は、幾つものサイエンスが隠されています。そういう視点で文化（活動を含む）を見直していくとまた違ったものが見えてくると信じています（例えば博物館業界について見てみても、決して国立科学博物館、日本科学未来館や科学技術館だけが科学と関係する博物館ではないのです）。文化関係の技術的諸事項について興味のある方、知見をお持ちの方、是非とも情報交換をして下さい。お待ちしております。

園 家 研一郎

技 術 部 門：航空・宇宙部門（技術士補）

役 割：国際交流

勤 務 先 等：(株) ニッケイ・トラスト

専 門 技 術：宇宙空間、大気圏の飛行体の推進動力システム

趣味・特技：英語、空手

メッセージ：

国際的な技術者交流は21世紀の技術士（補）のあるべき姿、そう信じて英語力を生かして、技術士の国際展開の一翼を担いたいと思います。

仁田 晃人

技術部門：電気電子部門（修習技術者）

役割：

勤務先等：(株)損保ジャパン・ビルマネジメント

ビル管理部 東日本巡回課

専門技術：施設電気設備に係わる改修計画等

趣味・特技：旅行・野球、スポーツ全般



メッセージ：

異業種の方々と出会い、その中でいろいろな知識・技術を吸収できることを非常に有意義に感じています。

昨年度は、あまり青技交活動に参加できませんでしたが、なるべく都合をつけて活動に加わっていきたいと思います。

よろしくお願いします。

山田 英樹

技術部門：建設部門（技術士補）、上下水道部門

役割：修習技術者、国際交流

勤務先等：三浦市役所

専門技術：下水道計画

趣味・特技：海外旅行、競馬、料理（自分で作らないと食べられない）・弓道、書道

メッセージ：

最近気づいたことですが、結婚式の祝辞を述べたりするときに、以前に増して能弁につらつら話せるようになってきました。

これも委員会活動など人前で話す機会が増えたから慣れてきたのかな・・・。

もちろん時間は気にして不用意に長くならないようにしています。

近頃、自己研鑽が甘いので意識して取り組めるものを増やそうと思います。



2005 年 12 月 20 日

日韓技術士会議青年委員会関連(サッカーおよび第6分科会)報告

青年委員会副委員長／日韓技術士会議実行委員 平野輝美

□1. はじめに

青年技術士交流実行委員会(以下、青年委員会)は韓国技術士会青年委員会と連携し、第 35 回日韓技術士会議(韓国全州市)において、親善サッカーの試合および講演発表会を実施した。これらのイベントを通して、韓国技術士会青年委員会諸氏との交流を図る事ができ、成果の多い会議であった。親善サッカーおよび講演発表会について概略をまとめ、報告する。

□2. 日時, タイムテーブル

日時: 2005 年 10 月 23 日(日)

10:00	ソウル出発
12:30~13:30	昼食
15:00~18:00	サッカーゲーム
20:00~22:00	晚餐

日時: 2005 年 10 月 24 日(月)

09:00~12:00	合同シンポジウム
13:00~16:30	第6分科会
18:00~21:00	晚餐会

□3. 親善サッカー

全州ワールドカップサッカー場にて韓国技術士会青年委員会の招待により日韓親善サッカー大会として開催された。写真1は、会場となったワールドカップスタジアムである。すばらしい会場であった。

また、会場までの移動や昼食などにおいて、韓国技術士会、青年委員会による心のこもったもてなしがあり、きわめて快適な移動であった。韓国技術士会青年委員会に深く感謝する次第です。同行いただいた中山委員長はじめ日韓技術士会議参加者の方々に感謝いたします。

さて、サッカーゲームにつきましては、韓国サッカーチームの実力は驚異的であり、日本技術士会サッカーチームとしては歯が立

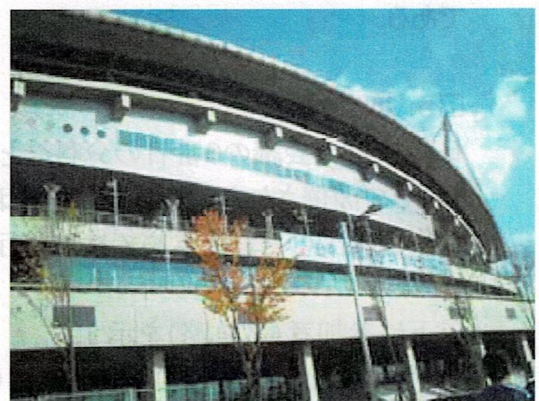


写真1 全州ワールドカップサッカー場

たない状況であった事は否めない。正確なスコアを確認するに至るまでもなく、大差で韓国技術士会青年委員会の大勝であった。写真2, 3にゲーム中の様子を示す。



写真2 サッカーゲームの様子



写真3 サッカーゲームの様子

□4. 晩餐会(ウェルカムパーティ)

サッカーゲームの後、夕食会について韓国技術士会青年委員会の招待を頂いた。家族的雰囲気のなかで、日韓技術士会のそれぞれの会長による挨拶をいただき交流を深めた。本晩餐会について、韓国技術士会青年委員会によるご招待であった。

また、晩餐会の後日韓両国の青年委員会にて交流会を行った。それぞれのメンバー同士にてざくばらんに話を交わす事ができたと考えている。写真は青年委員会による二次会の様子である。



写真4 日韓青年委員会メンバー

□5. 第6分科会

日韓技術士会議の6番目の分科会として、青年委員会主催の分科会が設置され、本年第1回として開催された。準備の過程における申し合わせにより、英語による分科会となったが、今後は両国の言語を含めて検討を行う。

以下に参加者(敬称略)を示す。

[日本] 大氏正嗣(建設), 牛嶋國雄(建設), 園家研一郎(航空宇宙), 野村貢(建設, 総合技術監理), 平野輝美(化学), 堀田亨(応用理学, 総合技術監理), 沼中秀一(衛生), 石

関学(電気電子), 前田秀一(化学, 総合技術監理)

[韓国] Kyung Sik Kim, Jae Kun Yoon, Young Hwan Park, Kim Yun Su, Tai Hee Park, Hae-Won Lee, Byoung-Yeol Choi, Hyun Hwa-Lee

以下に各講演の概略を示す。

5.1 イントロダクション

韓国青年委員会の Y. H. Prak(朴)委員長から, 韓国青年委員会の紹介があった。サッカーの練習風景, 野村前委員長とのソウルでの打ち合わせ, 家族などの写真を見せながらの紹介であった。会議をリラックスした雰囲気スタートさせるには効果的なイントロダクションであった。

韓国のイントロダクションを受けて, 日本側からは石井委員長の代理として前田副委員長が, 日本の青年委員会を紹介した。まず, 前日(10/23)のサッカーなど韓国側のホスピタリティに対する謝辞を述べた。次に青年委員会が, 青年技術士懇談会から発展的に移行したものであること, 青年委員会の4つのミッション(以下に記載)と, 5つの小委員会(運営小委員会, 政策対応小委員会, 若手技術者支援小委員会, 全国交流小委員会, 国際交流小委員会)からなる組織構成などを説明した。



写真5 朴委員長による韓国青年委員会の紹介の様子

- ・ 本会の運営について企画, 立案に対する若手技術士層としての積極的な参加, 協力
 - ・ 若手技術士向けを中心とした研鑽事業の企画・実施
 - ・ 各支部における若手技術士グループとの交流による研鑽活動の活性化
 - ・ 若手技術士としての国際交流の実施
- また, 両国の参加者各自が英語にて自己紹介を行った。

5.2 発表

予め以下の発表テーマを選定していた。

- ・ MOT(レクチャー:30分)
- ・ Forecast 10 years after(プレゼンテーション:20分)

上記テーマに則り, 日本から, 下記に示すレクチャー1件, プレゼンテーション2件の報告を行った。

[レクチャー]

- ・ 「About the Directionality of a Coming and Social Maintenance of the Population

Decrease Society – Standpoint of public building planning」: 大氏 (建設)

[プレゼンテーション]

- ・「Interplanetary Aircraft – Concept for Manned Flight in the Atmosphere on the Surface of the Planet except the Earth」園家 (航空宇宙)
- ・「Forecast 10 Years – Underground Space Technology」牛嶋 (建設), 野村 (建設)

韓国側から活発な質問が繰り返された。お互いに専門が異なることから、深部に突っ込んだコメントよりはプリミティブな質問が多かったが、交流という趣旨には合っていたと考える。

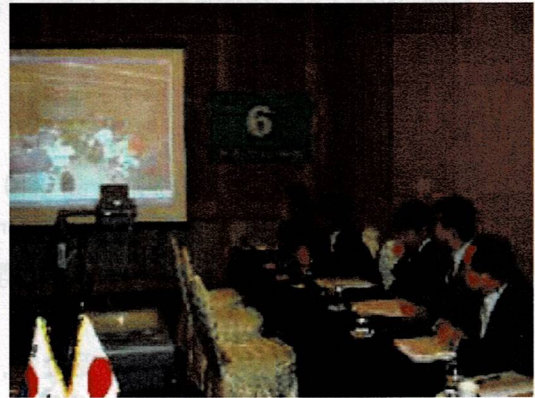


写真6 分科会報告の様子

一方韓国から、下記のプレゼンテーション2件があった。

- ・「Year 2030, What will happen in future Korea ?」Kim, Kyung Sik
- ・「Hydrogen in the Future」Yoon, Jae Kun

発表者の、Kim氏は電力会社の海外事業本部長で53才、Yoon氏はペンシルバニア州立大学の客員教授資格を有する47才の韓国の大学教授である。

韓国の発表は2件とも未来予測的で興味深くわかりやすい報告だったこともあり、日本からも活発に質問やコメントを発信した。有意義なディスカッションに導いてくれた点では、素晴らしいプレゼンテーションだった。

□6. 今後の進め方

韓国の委員長のPark氏と前田副委員長にて次回沖縄会議における第6分科会の進め方につき、意見交換した。なおこの意見交換は、何かを決定するためではなく、単にお互いの考えを出し合うに止めることに同意した上で、行った。正式な打ち合わせは、日韓双方とも自国の委員会ですで十分に議論した後に委員長間で進めることを、確認している。

まず、第6分科会の形式的な意味での進め方(イントロダクションを行い、双方から発表し、ディスカッションする方式)については、特に異論はでなかった。

一方発表テーマについては、発表者の人選にもかかわることから、その選定には慎重になるべきとの共通認識を持った。つまり、あまりに特定の分野に特化し過ぎると表面的な質疑応答にしかならないし、総論的な内容となると若手の起用はむずかしくなる。上記の点に注意しながら、次回のテーマは以下のように選定するという案が出た。まず日本側で5～10程度のテーマを提案し、韓国側はその中から対応可能なテーマを選択する。協議の上、2～3に絞って最終的なテーマを決める、というものである。また上記とは別に、誰でも発表できるようにテーマを全くフリーにするという案もでた。



□7. 第6分科会の所感

本第6分科会は、ディスカッションが活発に行われ青年技術士同士の交流という意味では成功だったと思う。また技術的な観点から眺めても、今後の展開への取りかかりとして上出来だったと考える。

□8. 晩餐会

本会議終了後、韓国技術士会主催の晩餐会が開催された。青年委員会から、第6分科会出席者が参加した。

韓国技術士会青年委員会委員長の朴氏はご家族で参加されていた。写真7に示す。昨年の米子において、朴氏は家族でご参加いただいた。来年は日本側の主催であり、可能な限り家族にて参加いただく事を考えた方が良いであろう。

また、晩餐会において韓日技術士交流実行委員長の李氏等の各位と名刺交換できた。今後の交流における基礎となると考える。



写真7 韓国技術士会青年委員会委員長の朴氏ご家族と日本技術士会参加者

□9. 総括

日韓技術士会議の第6分科会として青年委員会主催の分科会を設置し、滞り無く開催する事ができたことは喜ばしい。このような交流は今後に引き継ぐ事が重要と考える。サッカー等のイベントを含めて、来年の沖縄会議が重要な意味を持つと考える。青年委員会の総力をもって来年の会議を成功させたいと思う。

以上



The 23rd Conference of ASEAN Federation of Engineering Organizations (CAFE0-23)
The 12th Young Engineers of ASEAN Federation of Engineering Organizations (YEAFEO-12)
Conference

Date: 8th & 9th December 2005

Place: Don Chan Palace, Vientiane, Lao PDR

Host: The Lao Union of Science and Engineering Associations

Theme: Enhancing ASEAN Co-operation in Engineering for Poverty Alleviation and Sustainable Development

• Arrival at Wattay International Airport and Don Chan Palace, Vientiane



Many People were waiting not for us but for the Muay-Lao national team at the airport, as we were on the same flight. The CAFE0 staff kindly took us to the venue hotel. "Sabaai-dii (Hello in Lao) Laos!"

• Opening Ceremony and Keynote Speech by the Deputy Prime Minister Asang Laoly of Lao PDR



Female banner-bearers in national dress entered the ballroom along with the senior delegation leaders and staff members, followed by Deputy PM's speech.

• CAFE0 Technical Presentation



There were three technical presentations by members of the Japanese delegation, one of which turned out to be somewhat informal due to unexplained absence of the chairperson.

【介隣一々ス沐儀系流交親国】

• YEAFE0 Board Meeting and Exchange of Souvenirs



Country reports were given by participating representatives, followed by the Board Meeting. The agenda included topics that invited heated discussions.

• Welcome Dinner and Farewell Dinner Party



Traditional and popular Laotian dance and music were presented. Each delegation was then called on to the stage to present its own programme/improvisation.

• Vientiane City Tour (YEAFE0)



The tour was organised by Laotian young engineers, including visits to the National University of Laos, That Luang Stupa, Wat Ho Prakeo Museum, Wat Sisaket Temple and Ta Lat Sao (Morning Market). Crossroad and sidewalk banners with CAFE0 signs welcomed us. "Khop chai (Thank you) Laos!"

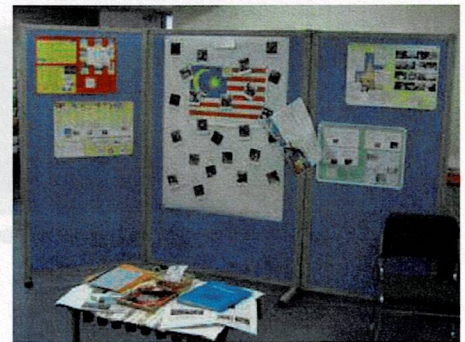
2003.10.10 ～10.25	中国・三城 CAFE0_21/YEAFE0_10	中 華 人 民 共 和 国	中 華 人 民 共 和 国
2003.10.26 ～10.30	山 田 英 樹 山 田 英 樹 山 田 英 樹	山 田 英 樹 山 田 英 樹 山 田 英 樹	山 田 英 樹 山 田 英 樹 山 田 英 樹
2004.12.18 ～12.19	山 田 英 樹 山 田 英 樹 山 田 英 樹	山 田 英 樹 山 田 英 樹 山 田 英 樹	山 田 英 樹 山 田 英 樹 山 田 英 樹
2005.12.8	山 田 英 樹 山 田 英 樹 山 田 英 樹	山 田 英 樹 山 田 英 樹 山 田 英 樹	山 田 英 樹 山 田 英 樹 山 田 英 樹

(Captions by Mari Kurai)

【国際交流活動ポスター紹介】

今までの主な国際交流活動をポスターにし、3月例会において展示しました。

紹介したポスターを次ページ以降に紹介します。



- ・中国視察は香港工務局から日本技術士会への訪問があり、この際若手技術者グループである青年技術士懇談会（青年技術士交流実行委員の旧名）を紹介したところ、中国で進められている三峡ダム建設などのプロジェクト視察への参加案内が届いたものです。
- ・CAFE0 は Asean Federation of Engineering Organizations (AFE0) の主催によるものです。AFE0 は、ASEAN 事務局と提携する非政府組織であり、AFE0 参加団体は、ASEAN 加盟国により設立される技術系組織で構成されています。

CAFE0 は、AFE0 の目標と目的である、親交を深め、理解・協力し、また意見と経験の交換を行うために、毎年加盟国が交代で主催し、開催されています。

ASEAN 加盟国の技術と産業の向上のための技術交流の場であり、YEAFE0 はその中の若手技術者の分科会となります。

期 間	国 名	派 遣 者	内 容
2003. 10. 19 ～10. 25	中華人民共和国	伊藤英忠	中国・三峡ダム建設などのプロジェクト視察
2003. 10. 21 ～10. 26	インドネシア共和国	桜井裕一 山田英樹 前田香奈	CAFE0_21/YEAFE0_10 参加
2004. 12. 18 ～12. 19	ミャンマー	清田隆 山田英樹 斎藤稔	CAFE0_22/YEAFE0_11 参加
2005. 12. 6 ～12. 11	ラオス人民民主共和国	田上健一 鈴木康介 宮坂好彦 倉井真理	CAFE0_23/YEAFE0_12 参加

黄金のバゴタの国・ミャンマー

ホスティング

親切なミャンマーの人々は、人をもてなす技術が得意です。
CAFEDは国をあげてのイベントなので、つきっきりでサポートしてくれました。ランやテニスが活発に交流出来るように、ランやテニス用具を提供し、買い物に行くといえ、あつという間に買い物ツアーを企画し、ミャンマー人のグループに1人は必ずミャンマーの人が付きそっていく体制を作ってくれます。
参加者のその場の希望に合わせて、企画していたツアー内容や時間を随時変更し、対応してくれていました。
相手の気持ちと一緒に楽しみたい所です。CS約にも見習いたい所です。

人々

多様な仏教教徒が多いミャンマーの人々は、軍事政権という響きは異様に、とても敏感です。カメラを触った時も、真剣に探して見つけ出してくれまわった。現地のドライバーの方も、前回は港に送ってもらった向、報酬が多すぎるからといって受け取ってくれませんでした。
治安も日本よりいいという話です。

技術者

ASEAN諸国はどこもそうだと思いますが、技術者の地位が高い。これから発展していく国の成長を支えている技術者は、国の大切な宝なのだと思います。
そのための技術者は、自分が技術者ということに誇りと自信を持ち、真剣に自分と国の将来を考えていきます。
だからセパレーションも高く、行動力があります。

軍事政権

ミャンマーは現在軍事政権下にあります。アウン・サン・スー・チーさんの独裁制で有名な国でもありますが、最近ではCAFEDにも出資されたソー・ウー・ウィン閣下も民主主義へのシフトを知っています。それでも国際社会では、民間の力で国が変えられるし、国益の事業を軍人が運営するといふ、日本では考えられない状況にあります。

宗教

多様な仏教徒。
世界中のほとんどの国が特定の宗教を信仰している、文化や経済も、宗教の影響を受けていることが少なくないでしょう。
ミャンマー国内には、仏教のほかにバゴタと呼ばれる原始宗教の仏教が在りしています。
人々は毎日、出動前に花を飾る一日2回、これらのバゴタに参拝し日々の生活に感謝しています。



D A T A
国名 ミャンマー
面積 676,800km² (日本約1.5倍)
人口 5,217万人
人種 ミャンマー系 (約70%)、その他多くの少数民族
宗教 仏教 (90%)、キリスト教、回教
言語 ミャンマー語、英語
首都 ナヤピ
在日ミャンマー人 約5,000人

微笑みの王国・ラオスで得た

ヤフエカフエ十箇条

一 あらゆる事物に対して好奇心を持って臨むべし

観光地には見慣れた風景や建物、食事は「当分の間は我慢」。
「観光地には見慣れた風景や建物、食事は「当分の間は我慢」。
心づくしを心づくし。
観光地には見慣れた風景や建物、食事は「当分の間は我慢」。



二 決の準備はぬかりなく、慎重に計画、手配すべし

観光地には見慣れた風景や建物、食事は「当分の間は我慢」。
「観光地には見慣れた風景や建物、食事は「当分の間は我慢」。
心づくしを心づくし。
観光地には見慣れた風景や建物、食事は「当分の間は我慢」。



三 日本の自然や文化を熟知し、解りやすく説明すべし

人は「自然や文化を熟知し、解りやすく説明すべし」。
「自然や文化を熟知し、解りやすく説明すべし」。
心づくしを心づくし。
観光地には見慣れた風景や建物、食事は「当分の間は我慢」。

四 異国の文化や風習にも関心、理解をすすべし

異国の文化や風習にも関心、理解をすすべし。
「異国の文化や風習にも関心、理解をすすべし」。
心づくしを心づくし。
観光地には見慣れた風景や建物、食事は「当分の間は我慢」。



五 夢に日本夢現(大和撫子)代表として堂々と行動すべし

夢に日本夢現(大和撫子)代表として堂々と行動すべし。
「夢に日本夢現(大和撫子)代表として堂々と行動すべし」。
心づくしを心づくし。
観光地には見慣れた風景や建物、食事は「当分の間は我慢」。

六 同僚にも面倒がらず「おもてなし精神」を養育すべし

同僚にも面倒がらず「おもてなし精神」を養育すべし。
「同僚にも面倒がらず「おもてなし精神」を養育すべし」。
心づくしを心づくし。
観光地には見慣れた風景や建物、食事は「当分の間は我慢」。



七 時間・約束・決まりごとには「ゆるやかに」順守すべし

時間・約束・決まりごとには「ゆるやかに」順守すべし。
「時間・約束・決まりごとには「ゆるやかに」順守すべし」。
心づくしを心づくし。
観光地には見慣れた風景や建物、食事は「当分の間は我慢」。

八 全ての海外活動には遅くても参加すべし

全ての海外活動には遅くても参加すべし。
「全ての海外活動には遅くても参加すべし」。
心づくしを心づくし。
観光地には見慣れた風景や建物、食事は「当分の間は我慢」。



九 冷めた態度は「温度、全身全霊をもって打ち込むべし

冷めた態度は「温度、全身全霊をもって打ち込むべし」。
「冷めた態度は「温度、全身全霊をもって打ち込むべし」。
心づくしを心づくし。
観光地には見慣れた風景や建物、食事は「当分の間は我慢」。



十 予断せぬ事故や失敗も貴重な宝と心得べし

予断せぬ事故や失敗も貴重な宝と心得べし。
「予断せぬ事故や失敗も貴重な宝と心得べし」。
心づくしを心づくし。
観光地には見慣れた風景や建物、食事は「当分の間は我慢」。

ヤフエカフエ七つ道具



【道具1】



【道具2】



【道具3】



【道具4】



【道具5】



【道具6】



【道具7】

ラオス共和国

面積 236,800 km² (日本の約1.5倍)

人口 560万人 (2005年推定)

首都 ヴェンチヤン

主要言語 ラオ語 (60%)、その他少数民族言語

主要産業 農業、工業、林業、観光

主要都市 ヴェンチヤン、パタムサイ、サワンナブリー

主要交通手段 航空、道路、鉄道

主要観光地 ヴェンチヤン、パタムサイ、サワンナブリー

主要観光資源 自然、文化、歴史

主要観光客 日本人、中国人、タイ人

主要観光客の増加 2005年推定 2,200人